

NEWS

2008.8~2009.1

出版会活動

◆「榎田伸也…通り過ぎた風景」を十月十一日に出版

一九六〇年代から独創的な風景画を描き続け、フラットでありながら不思議な奥行きを感じさせる新たな風景画の境地を切り開いた画家・榎田伸也。その初めての本格的な作品集がリリースされた。本書は、榎田の代表作約一〇〇点を収録するほか、日々の制作で触発されたイメージを多数織り込み、画家の驚くべき緻密で自由な発想のプロセスをたどる。



◆DVD「大学院映像研究科第二期生修了作品集二〇〇八」を十二月十日より販売

二〇〇八年三月に修了した映画専攻第二期生。一年次から短篇、長篇と制作実習を重ねてきた監督領域を中心とする各領域の学生たちが、その集大成として取り組んだ修了制作全六作品を今年もDVDとして発売。

収録される作品は、第五十六回サンセバスチャン国際映画祭の新人監督コンペティションと第九回東京フィルムメックスのコンペティションに正式出品された

「PASSION」(濱口竜介監督)をはじめ、今後の活躍が期待される監督たちの作品群である。



東京藝術大学出版会の出版物等は、藝大アートプラザおよびアマゾン(ネット販売)にて取り扱っております。詳しくは、藝大アートプラザ(〇五〇・五五二五・二二〇二)まで。

交流

◆大学間国際交流協定締結

十月二十四日、ミラノ工科大学(イタリヤ)と本学は、美術、デザイン及び建築に関する教育、研究及び交流の分野で協力することに同意し、芸術国際交流協定を締結した。この調印により、本学における交流協定締結校は十六カ国(地域)、三十九大学等となった。

◆東京藝術大学と台東区が連携協定を締結

十月二十四日、本学と台東区は、地域社会の芸術、文化、教育、まちづくり、産業等の振興のための連携協定を結び、区内ホテルで開かれた調印式で宮田亮平学長と吉住弘区長が協定書に署名した。



これまでも本学と台東区は、さまざまな分野を通じ、数多くの交流・連携事業を行ってきた。今回の協定は、これまでの連携関係を総括し、今後の各種事業の充実・発展と

円滑な推進を図ることを目的に締結されたもの。

◆東京藝術大学と荒川区が芸術・文化振興のための連携に係る合意書を締結

十二月十八日、本学と荒川区は、地域における芸術・文化振興と大学における芸術教育活動の発展を図るため、相互の人材、物的資源を最大限に活かし、芸術・文化振興に係る諸事業を、連携、協力して実施していくことを目的に合意書を締結した。

受章・受賞

◆藤原信幸講師が藤田喬平賞・観客賞を受賞

受賞者氏名…藤原信幸(工芸科講師)
○賞名…藤田喬平賞・観客賞
受賞作品名…植物のかたち(技法…宙吹き/フュージング/木彫(木))
日時…平成二十年八月二十七日

◆堀越謙三教授がフランス芸術文化勲章「シュバリエ」を受章

受賞者氏名…堀越謙三(映画専攻教授)
○賞名…フランス芸術文化勲章「シュバリエ」叙勲
日時…平成二十年九月五日

◆北野武教授が「第四十九回テッサロニキ国際映画祭」(ギリシャ)ゴールデーン・アレクサンダー名譽賞を受賞

受賞者氏名…北野武(映画専攻特別教授)
○賞名…「第四十九回テッサロニキ国際映画祭」(ギリシャ)ゴールデーン・アレクサンダー名譽賞
日時…平成二十年十一月十八日

◆佐藤雅彦教授と桐山孝司准教授が「第十二回文化庁メディア芸術祭」エントラティメント部門優秀賞を受賞

受賞者氏名…佐藤雅彦(メディア映像専攻教授)・桐山孝司(メディア映像専攻准教授)
○賞名…「第十二回文化庁メディア芸術祭」エントラティメント部門優秀賞
受賞作品名…君の身体を変換してみよ展

◆伊藤有孝教授が「第五回中国国際アニメーション&デジタル・アート・フェスティバル」ベストテレビジョンプログラム部門最優秀賞を受賞

受賞者氏名…伊藤有孝(アニメーション専攻教授)
○賞名…「第五回中国国際アニメーション&デジタル・アート・フェスティバル」ベストテレビジョンプログラム部門最優秀賞
受賞作品名…「ニヤッキ」「サクランボ」
日時…平成二十年九月二十九日

◆山村浩二教授が次の四賞を受賞

受賞者氏名…山村浩二(アニメーション専攻教授)
○賞名…「第十二回広島国際アニメーションフェスティバル」グランプリ
受賞作品名…「カフカ 田舎医者」
日時…平成二十年八月十一日

○賞名…「第五回中国国際アニメーション&デジタル・アート・フェスティバル」審査員特別賞
受賞作品名…「校長先生とクジラ」
日時…平成二十年九月三十日

○賞名…「第九回ブラチスラヴァ・アニメーション・ビエンナーレ」アルビン・ブルノフスキー名譽メダル
日時…平成二十年十月十八日

○賞名…「第十二回文化庁メディア芸術祭」アニメーション部門優秀賞
受賞作品名…「こどもの形而上学」

運営

◆日本音楽サマースクール

八月二十日から二十八日まで、日本音楽サマースクールが実施された。これは、日中韓の芸術系大学十一校が国を越えて協力し、芸術の発展への貢献と、芸術を通じて豊かな国際社会の構築を謳った二〇〇七年十月の「芸術宣言」を推進する「アジア芸術宣言プロジェクト」のひとつ。中国および韓国の姉妹校

と連携を強化し、さらなる芸術教育の革新と新しいアジア芸術文化の創造を企図して、中央音楽学院、上海音楽学院(以上、中国)、ソウル大学校音楽大学、韓国芸術総合学校伝統芸術院(以上、韓国)から学生を各校二名ずつ招き、日本音楽(箏曲生田流)の短期研修を行った。



最終日に開催されたミニコンサートで研修生らは、「さくら変奏曲」と「六段の調」の一部を演奏し、さらには、自国の民謡「茉莉花」(中国)と「アリラン」(韓国)を箏曲にアレンジして披露し、研修をサポートしてきた藝大生たちに新鮮な印象を与えた。

◆藝大リサイクルシリーズⅡ

本学音楽学部では八十名ほどの常勤教員が、さまざまな分野で学生たちの指導に当たっているが、そのほとんどが、教員であると同時に優れた演奏家である。二〇〇七年度からスタートした「藝大リサイクルシリーズ」は、そうした教員たちが、演奏家としての技量を発揮できる場を設け、その財産を社会に還元していくことを目的に企画されたコンサート。今年九月九日から十六日まで、ピアノの迫昭嘉教授、ヴァイオリンの玉井菜採准教授、山田流箏曲の萩岡松韻教授、クラリネットの山本正治准教授というジャンルの異なる四人の教員が、意欲的なプログラムを自ら組み、好評を博した。

◆藝大アーツイン 東京丸の内

本学が文化・芸術活動の情報発信を行って世にときめきをもたらす、街の活性化を図るとともに魅力ある街づくりを推進することを目的として、三菱地所(株)との共催で丸の内丸ビルを会場に

音楽学部の社会連携にはちょっと驚かされた。年末恒例のチャリティ・コンサート藝大メサイア（朝日新聞社主催）が今年で59年目、伊澤修二先生記念音楽祭（伊那市高遠町）が23年目、地元の合唱団と連携した台東第九公演（台東区）が29年目と、ともに大変長寿なことだ。

長く続くものには共通の秘訣が必要だ。質が高いレベルで保たれていること。ニーズが常に存在すること。そして何より強い義務感、誇りや愛情といったモチベーションの高さが不可欠だ。短期的には、面白い、珍しいといったアイデア勝負に終始しても何とかなるが、長くは保たない。音楽という芸術文化が一度開花した時の根の深さは、相当なもの、長期戦になることを改めて知った。

考えようによっては、これからの高齢化社会は豊かな時間を楽しむ社会であり、クラシックや邦楽のユーザーの増加が予想される。音楽文化への社会の期待度はさらに大きくなる、そんな時代を迎えようとしている。

藝大通信編集長
長濱雅彦

展覧会・演奏会の最新情報は、東京藝術大学公式Webサイト (<http://www.geidai.ac.jp>) をご覧ください。

展覧会についてのお問い合わせ
東京藝術大学大学美術館 Tel. 050-5525-2200
NTTハローダイヤル Tel. 050-5777-8600

演奏会についてのお問い合わせ
東京藝術大学大学音楽学部演奏企画室
Tel. 050-5525-2300

演奏会チケットの取り扱い
藝大アートプラザ Tel. 050-5525-2102
ヴォートル・チケットセンター
Tel. 03-5355-1280
チケットぴあ Tel. 0570-02-0990
東京文化会館チケットサービス
Tel. 03-5815-5452

藝大アートプラザのご案内
(株)藝大BioN(ピオン)
Tel. 050-5525-2102
Fax 050-5525-2486

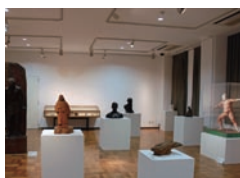
開催するイベント。

二年目となる今年は、十月六日から十三日まで、宮田学長と女優岸恵子さんのトークショーや邦楽、マリンバ、スクエア・ピアノなどの演奏会や藝大神輿の展示などさまざまなイベントを行い、丸ビルを訪れた人々をアートの世界に誘った。本学と三菱地所は、同イベントに限らず、さまざまな形で丸の内文化力を高めるために連携協力していくことを合意しており、オープニングセレモニーでは、宮田学長と三菱地所本村社長による連携協力に関する覚書の調印式や、藝大生への支援として新たに始まった「三菱地所賞」受賞者記念リサイタルなども行われた。

◆田中コレクション展を開催

十月十七日から十一月三日、一月八日から二十五日まで、正木記念館一階で田中コレクション展が開催された。これは、一九五〇年、平櫛田中教授（当時）により寄贈された自作二十七点を含む彫刻作品一三三点に由来し、その後、数次にわたる追加寄贈を加えた計一四八点にのぼる近代彫刻コレクションである。一九六六年から、これらの作品は展示されてきたが、芸術資料館から大学美術館への改組・施設新築（一九九八年）に伴う閉鎖を経て、二〇〇七年十月、正木記念館一階を使用し再開された。開室は不定期ながら一般にも公開されている。

今年度は米林雄一、山本正道両教授の退任記念展に合わせ開催された。



◆輝く書物―中世写本ファクシミリ選― 附属図書館所蔵貴重資料展

十月二十七日から、本学附属図書館二階目録室を会場に、同館が所蔵する七十七点余の西洋中世写本のファクシミリ・コレクションの一部を展示公開し、印刷術が発明される以前の中世ヨーロッパにおいて、芸術作品として制作されていた写本という媒体の魅力と、その興味深い発展の様相を紹介展示した。ファクシミリとは原本にできるだけ似せて作った写真複製本のこと、現在では印刷技術の発達によって原本と変わらないほど真に迫る極めて精巧なものが刊行されており、研究、鑑賞両面において重要な役割を果たしている。附属図書館では、この中世写本の豪華ファクシミリ版を長年にわたって積極的に収集し、国内有数のコレクションを有するに至っている。

◆感動を心に響かせる「学長と語ろう トーク&コンサート」

十一月十五日、第四回「学長と語ろうトーク&コンサート」が、ゲストに東洋大学総長で元財務大臣の塩川正十郎氏を招いて開催された。

第一部で塩川氏と宮田学長は、まず、「感動が大事である」という意見を互いに披露し合い、「政治や教育には〈感動〉が不可欠」と、人の心を揺さぶる〈感動〉の力の重要性を確認し合った。

さらに塩川氏は「人間の豊かさや生き甲斐は文化の薫り高い世の中でこそ感じられるもの。藝大には、社会に創造的な豊かさをもたらし、時代を切り拓いていく大学になってほしい」と期待を述べた。



第二部では、本学で学ぶ留学生によるコンサートが開かれた。香港からの留学生が作曲した日本の箏と笛の曲の演奏や、オーボエ、尺八の演奏に加え、その多くがすでに母国で一流の奏者である留学生

たちによって奏でられる民族楽器の音色に聴衆は大いに沸き、満場の喝采がなにも雄弁に彼らへのエールとなって響いていた。

◆第三回 藝大アートプラザ大賞入賞作品展

十一月二十六日から十二月二十四日まで、第三回「藝大アートプラザ大賞作品展」(作品テーマは「絆」)が藝大アートプラザにて開催された。これは学生の制作活動の成果を広く社会に発信するため平成十八年度から実施している学内アイトコンペで、厳正な審査を経た入選作品を展示、販売するもの。三回目を迎えた今回は、総勢三十七名(七十点)の応募があり、そのなかから選ばれた三十五名(六十一点)の作品が会場を飾った。

第三回藝大アートプラザ大賞を受賞したのは、美術学部彫刻科に在籍する中村弘峰さんの作品「結ばれた天体」。中村さんは第一回に続き二度目の大賞を受賞。



◆藝大フレンス加入者状況

加入者数 平成二十二年一月三十一日現在

賛助フレンズ 個人一五二名 法人五団体
特別賛助フレンズ 個人二〇名 法人〇団体

◆今年度下半期に開催された主な展覧会、演奏会記録

大学美術館
狩野芳崖 悲母観音への軌跡―東京藝術大学所蔵品を中心に
会期 八月二十六日～九月二十三日
入場者数 二万六千三百名
台東区コレクション展 日本絵画の源流、敦煌莫高窟壁画模写
会期 八月二十六日～九月二十三日
入場者数 一万四千二百六十六名
線の巨匠たち―アムステルダム歴史博物館所蔵 素描・版画展
会期 十月十一日～十一月二十四日
入場者数 二万三千三百六十六名
奏楽堂
藝大21 和楽の美 邦楽で綴る「平家の物語」前編
開催日 九月十一日
入場者数 五五九名
藝大オペラ定期第五十四回 G・ヴェルディ「ファルスタッフ」全三幕
開催日 十月四日、五日
入場者数 八四一名、八五三名
第四十回 藝大学生オーケストラ定期
開催日 十一月二十八日
入場者数 九二四名